

# 青い樹



対談“コドモのきもち、オトナのきもち。”  
情報サイトって、危険なの!?

話してみよう。聞いてみよう。  
～「少年の主張大会」から～

“まちづくり”に、参加しよう。

中学生のみなさんへ。ご家族の方へ。



# “コドモのきもち。オトナのきもち。”

「おとなはこどものことを全然わかってくれない」

「こんなにこどものことを考えているのに、どうしてわかってくれないんだろう」

お互いに、気持ちがうまく伝わらないということはないでしょうか。

そこで、高校を卒業したての女子2名が中学生の気持ちを代弁してくれるこども代表として、

おとな代表の当会議の神事務局長と本音で気持ちをぶつけ合い、コミュニケーションの糸口を探ってみました。

## そっとしておいてほしい時も、ある。

事務局長（以下「J」）：

私には小学6年生の娘がいるけど、最近、話しかけたりすると“汚い”とか“いやらしい”なんて言われる（苦笑）。年頃の女の子がそういう態度をとるのは、成長のあかしだと分かっているんだけど、ちょっと寂しいな…。



子どもから見て、お父さんが“ちょっとかい”を出してくるのって、どう？言葉ではきついことを言うけどさ、本音はどんなのかな？

N美：嫌じゃないけど、うざい時があるなあ。

Y美：うちは、父親が私が寝るころに仕事から帰ってきて、いつも「ごはん食べたか？」とか当たり前のことを聞いてきて。そんな時“うざい”と思っちゃう。何でそんなこと聞くの？とか、毎回同じこと聞かないでよ！って思うから、つい、そっけなくしたり、きつく当たっちゃう。

J：親は子どもとコミュニケーションを取りたくて、会話の“とっかかり”を探そうとしてるんだよね。だから、当たり前のことを聞いた時に、当たり前で答えてくれることが、すごく嬉しい。逆に、無視されると本当に悲しいし、寂しいんだよ。

N美：話をしたいんだけど、なぜか素直になれないんだよね。そして、何でこんなこと言っちゃったんだろうって後悔する…。

J：どうして素直になれないのかなあ。どうだったら素直になれると思う？

Y美：子どもは「素直」になりきれない時があるってこと、分かっているけど、寂しいな。そんな時は、しつこくせず少し放っておいて…。

N美：私、中学校のころに、ちょっとしたイジメに遭ったことがあるんだけど、そのことを親に話せなかった。心配かけたくないという気持ちと、話しても分かってくれないし、どうにもな

らないという気持ちがあって。自分のプライドもあるかな…。

Y美：私が学校や友達のこと、グチみたいに言うの、「あなたがもう少し〇〇すればいいんじゃない？」と逆に説教されたり、否定される時がある。なんか、受け入れられてない感じがして悲しくなるんだよね…。そういうことが続くと、どうせ親は、自分のモヤモヤを受け止めてはくれないんだ、って。だから、別に話をしなくてもいいや、って思っちゃう。

J：親は、子どものことを全部知りたい。理解してつつんであげたい。でも、子どもとしては、全部を全部、話したいわけじゃない。そこにギャップがあるんだよね。子どもとしては、親と話すのがちょっと面倒くさいと思う時がある。話しても、またいろいろ言われるんじゃないかって思ったり。親と子どもの関係って、変化していくものなんだよね。小さい頃は、親の後ろについて歩いてるけど、ある日突然、「自分」という感情が出てきて、自分はこう思う、こう考えているという主張をしたい半面、「親に全部言う必要ないじゃん」という感情も生まれてくる。まさに自我の目覚め。親としては距離感を感じ、とまどうけど、それって成長の段階で当たり前なこと。なんでもかんでも干渉するのではなく、大切なのは、子どもに「大人になるということは自分の言動に責任を持つことなんだ」ということ、そして「あなたのことを信頼している」ということをきちんと伝えることなんじゃないかな。

良いことをしたらきちんとほめる、逆に間違ったことをしたらきちんと叱る、そういうおとなが増えて欲しいな。

## 家族と一緒にいられる時間が、意外と短い

N美：私は将来、漫画家になりたいと思っていて、親に相談をしたことがある。でもその時、「もうちょっと現実



を見てみたら？」と言われ、否定された気持ちになった。「否定」するんじゃなくて、もう少し一緒に真剣に考えて、子どもが納得できるようにもっと具体的に教えてくれればいいのに。

Y美：私は、小さい頃、親に、好ましい友達と好ましくない友達と分類され、好ましくない子とはあまりつきあうな、って言われたことがある。親は、自分の価値観で、一緒に遊ばせたい子と、危険な感じ



がするから一緒に遊ばせたくないって子に分けて、友達を制限する。これは本当に嫌だった。全然そういう子じゃないのに。

N美：自分の人生なのに、なんか親に人生のレールを敷かれているみたいで、嫌だよなあ…。

J：確かに、そういうことがあるかも知れないな…。というか私にも覚えがある（苦笑）。あなたたちの気持ちはもっともだと思っ。でも、将来のことを考えると、苦労させたくないからいろいろと忠告するし、悪い影響のありそうな子とは遊ばせたくない…。そういう親の気持ちもわかってほしいな。

小さいとき、お父さん、お母さんと一緒に遊んだと思う。山や海に行ったり、粘土遊びをしたり。思い出は、親にとっても、子どもにとっても宝物になる。運動会とか旅行とか、子どもがいなかったら、こんな素敵な経験・感動はできなかった。子どもには本当に感謝をしているよ。

人生において、家族と一緒に過ごす時間って、意外と短いんだよね。だから、できる限り、一緒に経験し、感動し、たくさん思い出をつくりたい。

親はいつだってこどもの“応援団長”。どんな時も子どもを必死に守る気持ちでいるんだ。

もっともっと親と話をしようよ。話さないと分からないお互いの気持ちってたくさんあるはずだから。

N美、Y美：（うなずいて）そうだね！

# 話してみよう。聞いてみよう。～「少年の主張大会」から～

みなさんは日常生活の中で、感じたことや考えていることを、誰かに話していますか？  
自分の考えを誰かに話したり、友達や家族の意見を聞くことは、自分のことを知ってもらうため、  
また、相手を理解し、わかりあい、心からつながるために、とても大事なことです。  
下の文章は、みなさんと同じ中学生が、昨年の「少年の主張全国大会」で発表したものです。  
みなさんも、友達や家族と、感じたことを話しあってみませんか？

👑 第31回「少年の主張全国大会」内閣総理大臣賞

## 「メッセージ～特攻基地・知覧～」 廣瀬 岳(大分県竹田市立竹田中学校3年)



セピア色の写真の中の彼らは、楽しそうに腕相撲をしていました。「頑張れ!」「いいぞ。」「負けるな。」の声に囲まれて、負けまいと必死に力を込めている2人の若者の表情。そして笑顔。僕はその写真の前から足を動かすことができませんでした。

僕は去年の夏休み、鹿児島県の知覧にある、特攻基地記念館に行きました。そこで僕が目にしたのは、飛行機に乗って敵艦に突っ込み散っていった、特別特攻隊員たちの遺品でした。

多くの写真の中の若者達は、皆笑っていました。友と楽しく遊んだあの輝いた時間も、語り合ったあの温かな時間も、翌日には消えてしまうのに。それを見て僕は涙が出そうになりました。

隊員達の写真を見ながら、「なぜ隊員に志願したんだろう。」「どんな気持ちで志願したんだろう。」という疑問がわいてきました。大切な人を守るため? 国を守るため? 自分の命と引き替えに何かを守るなんて、僕には想像もできません。きっと僕だけでなく、誰だって同じだと思います。それなのになぜ、彼らは志願したのでしょうか。

僕は、はっとしました。それが戦争なのだ、彼らはきっとその道を選ぶしかなかったのだ、と。

改めて戦争の悲惨さを感じながら、僕は彼らの遺書を見ました。そのほとんどが、お母さんお父さんなど家族に向けて書いたものです。隊員といっても年は僕より2つか3つ上。学年でいえば高校生です。僕より少し年上の若者が、大切な人と永遠の別れをしなければならぬという現実がそこにはありました。

若者が書いた字とは思えないような、立派な筆文字で書かれた遺書の中に、『何も言う事なし』と書いた遺書がありました。この人は、書きたかったことが山ほどあったけれど、あえて書けなかったのだと聞きました。茶色がかったその紙の余白に、若者は何を書きたかったのでしょうか。

父への感謝、兄弟へ言い残しておきたいこと、これまでの多くの思い出。

「死にたくない、僕はまだ生きたい。」

「怖いよ、母さん!」

自ら死に向かう若者の声が僕の心に響きました。

明日死ぬと知りながら、やりたいこともいっぱいあったと思います。それをあきらめて国のためにと散っていった隊員達。言いたいことも言えず、死に向かうしかなかった彼ら。僕には一生かかっても出せない勇気を、ふりしぼる道しか残されていなかった若者達。

僕があの日、心から感じたのは、生きることのありがたさでした。知覧の空に飛び立っていった彼らに出会い、僕は今まであたりまえだと思っていた、自分の存在を見つめ直すことができたのです。

僕はそれまで、家族と一緒に過ごすことも、大好きなサッカーができることも、学校で勉強することも、すべてがあたりまえだと思っていました。その上、何かちょっとした嫌なことがあったり、思い通りにいかないことがあったりすると、すぐに不機嫌になっていました。何もかも面倒だと感じ、なげやりになることも、けんかした友達に「死んでしまえ」など、命を軽んじる言葉を言ったこともあります。「命が尽きるなんて、遠い遠い先のこと。」と生きていたからです。そんな僕に、彼らは『命の輝き』を教えてくれました。

彼らが僕に伝えてくれたメッセージ。それは「今を精一杯に生きること」。

彼らに出会ったことで、「自分のできることは何でも挑戦してみよう。努力してみよう。世の中をよく見つけ、しっかり考え、おかしいことはおかしいと、自分の言葉でものが言える人間になろう」そんな気持ちになれたのです。

セピア色の写真の中から聞こえてきたメッセージ。僕は彼らのメッセージを忘れません。

**Before** **After**

ペンキを塗る前は、こんな感じ。      こんなにキレイに!

主催：NPO 法人弘前子どもコミュニティ・ぴーぐる  
連絡先：0172-34-0171  
ホームページ：http://hicope.blogzine.jp/hicope

**まちづくり、参加しよう!**

みなさんは、自分が住んでいるまちのために、何かしていることはありますか？

このほど、弘南鉄道を魅力ある地域の資源にしようと、中学生も大人も一緒に、駅舎を赤いペンキで彩る「駅舎プチリフォームプロジェクト」を行いました。

まちのために何かすることによって、新しい発見や感動があります。みなさんも、近所の人に進んであいさつをしたり、道端のゴミを拾ったり、町内のお祭りなどを手伝ったり…。積極的に「まちづくり」に参加してみよう!



携帯電話は、家族との連絡に使ったり、友達にメールを送ったり、インターネットで調べ物をしたりと便利な反面、下のまんがのように、無料のインターネット情報サイトの使用により、事件に巻き込まれた事例も報告されています。

自分の身は自分で守らなくちゃ。

携帯電話の使い方について、家族みんなで話しあってみよう。

まんが・イラスト 奥崎 夏実



### 家族や先生に言えないような時は、ここに電話して!



■いじめにあったら・・・  
いじめ相談電話24：017-734-9188(県学校教育課・24時間対応)

■その他、なにか悩みごとがあったら・・・  
ヤングテレホン：0120-58-7867(県警察本部少年課)  
ヤングメール：youngmail-587867@extra.ocn.ne.jp

### ご家族の方へ

子どもたちを危険から守るためには、日頃の家族の見守りが不可欠です。“子どもを見守る3カ条”を実践しましょう。

- 1 携帯電話・インターネットの危険性を具体的に伝えましょう! → 誰もが被害者・加害者になる可能性があることをしっかりと伝えましょう。
- 2 フィルタリング機能を積極的に活用しましょう! → 知らないうちに、有害なサイトにつながることがあります。
- 3 ルールづくりは、シンプルに! → 家族みんなが納得できるルールを決めましょう。

# 中学生のみなさんへ

**2** ルールやマナーは守ろう！  
人に迷惑をかけないようにしよう。

**1** 恥ずかしがらず、  
自分からあいさつをしよう。

**4** 家族との時間を、大切にしよう。  
たくさん、話をしよう。

**3** 思いやりの心、感謝する心、  
命を大切にすることをしよう。

**5** ものづくりや家事などに、  
積極的に取り組もう。



# ご家族の方へ

**2** まず大人が子どもの見本となるよう、  
努めましょう。  
感謝の気持ちは、大人も、“ありがとう”  
の言葉で伝えましょう。

**1** 大人が率先して、あいさつや  
声かけを励行しましょう。

**4** “家庭”は子どもの豊かな心を育む、  
大切な場所です。  
積極的に“家族の時間”を作りましょう。

**3** 良いことをしたら、きちんとほめましょう。  
悪いことをしたら、きちんと叱りましょう。

**5** “体験”は、子どもの生きる力を育みます。  
積極的に子どもと体験活動を楽しみましょう。



## ～ 会員を募集しています ～

青少年育成青森県民会議では、地域での青少年活動及び育成活動をより一層活発に進めるため、すべての県民による青少年育成運動の推進を目指しています。  
この運動は、地域のすべての大人が、明日の地域社会を共に作っていく仲間としての青少年の育成に主体的に関わり、住み良い地域社会をみんなで作っていくというもので、運動の趣旨にご賛同・ご協力いただける会員を広く募集しています。  
加入の申込は随時受け付けておりますので、下記事務局までお問い合わせください。

### 会 費

〔正会員〕

青少年育成活動を協働して推進していただける団体・個人 ……年会費 団体会員：6,000円 個人会員：3,000円

〔特別会員〕

県民会議の趣旨に賛同して支援していただける団体・個人など ……年会費 団体・個人とも：10,000円以上

### 振込口座

青森銀行県庁支店：(普)80533 ゆうちょ銀行：02320-3-10820

\*口座名義はいずれも「青少年育成青森県民会議」

※会員には、①総会・研究大会のご案内

②機関誌「青少年あおもり」(年2回発行)の送付

③青少年啓発情報誌「青い樹」の送付

④「家庭の日」カレンダーの送付の特典があります。

## 青少年育成青森県民会議事務局

青森県環境生活部 青少年・男女共同参画課内 〒030-8570 青森市長島1-1-1 TEL.017-734-9224

青森県庁ホームページ(<http://www.pref.aomori.lg.jp>)内で検索

青少年育成青森県民会議

検索

